

偏見の目におしつぶされる

香芝市立香芝西中学校 二年 大西 未栞

皆さんは『恋愛対象として見る』という言葉はどう伝えますか。先日私がテレビを見ていて、「異性を意識する」と表現されていました。これが本当に適切な表現なのでしょうか。

個人的に、私はこの表現が嫌いです。なぜなら、この言葉は異性が恋愛対象だということが前提にあるからです。ささいなことのように感じても、人によっては深く心に刺さる言葉が、テレビだけでなく日常にも沢山あると私は感じます。「女子に体重を聞くのは失礼やで。」「俺、女子の読む漫画は持ってないなあ。」そのようなことを言われるたびに、その言葉が心にひっかかるのです。もちろん、私に気を使って言ってくれていることが多いとは思いますが。でも、好きなものや趣味、嫌な言葉に性別なんて関係ないと思うのです。人と接するとき、大事なのは見た目や性別でなくその人自身を見ることだと思っています。女の人だって、性格は人それぞれ違います。性別ごとに分けて性格を判断するより、ひとりの人間として接してくれるほうが私はすごく心が軽いです。

そもそも、見た目では性別なんて分かりません。私だって自分の心の性別が女性だと言ったことがないはずなのです。なのに、自分は女性だと思われています。男性、女性以外にも多くの性別があることを知っている人はどのくらいいるのでしょうか。中性や両性、無性、不定性はどの程度世界に知られているのでしょうか。近年、LGBTQという言葉が浸透してきたのは喜ばしいことだと思うのですが、LGBTQだけがセクシュアルマイノリティーだと勘違いする人がいるのではないかと考えてしまいます。そのことを防ぐために、セクシュアルマイノリティーについて更に多く学ぶべきだと私は思います。

また、学校ではどんな心の性別を持っていても、体の性別によって男子か女子かどちらかに属さなければなりません。これも男女にこだわる人が多くなる理由の一つだと思います。私は、男女の違いは体の特徴だけだと思っています。なので、なぜ出席番号や教室の席、ロッカーの場所を男女で分けるのか全く理解できません。中学生というのは、心も体もどんどん成長して、小学校のころには知らなかった新しい自分に気付いて色々ななやみを抱える時期だと思うのです。その中で心と体の違和感を感じた人がいたとして、もうそのとき既に男子や女子という型にはめられてしまっていたら、自分のことを言い出しにくくなってしまわないのでしょうか。

こうしたセクシュアルマイノリティーの方々が苦しめない社会をつくるには、偏見をなくすことも、とても大事だと私は考えています。例えば、ある髪の長い人が可愛らしい服装をしていたら、その人のことを女性として認識してしまうかもしれません。でも、単純に考えてみれば、その人の見た目からわかることは『髪の長い可愛らしい服装の人』、ただそれだけです。その後、その人が「可愛い服が好きなんだ。」と言ったとしたら、その人への認識は『髪の長い可愛い服が好きの人』へ変わる、ただそれだけなのです。それだけでいいのです。見た目では中身なんて分かりません。その人について知りたいなら、仲良くなりたいならその人と接して行って少しずつ知っていけばいいのです。その人のことなんてその人の口から聞かないと何も分からないのです。

こうした偏見的な認識をやめるのはとても難しいことだと思います。気付かずにやってしまうことが多いですし、私だって完璧にやめることはできません。しかし、このような偏見に苦しんでいる方は沢山います。もし、本当にやめることができたら、私だけじゃない、沢山の人の気持ちが変わると思うのです。だから、最初はできなくていいから、ちょっとずつでもやってみようとしてほしいのです。その姿勢が、またそれを社会全体で考えることがとってもとっても大事なのです。